■1979年カンヌ映画祭グランプリ受賞■フランシス・コッポラ監督作品

Apocalypse Now

地獄の黙示録

Herald

DOLBY STEREO™

アメリカ映画
〈カラー作品〉
日本ヘラルド映画

この世ならぬ2時間半の旅は、あなたの脳裏に永遠に残る！

製作・監督フランシス・コッポラ/脚本フランシス・コッポラ、ジョン・ミリアス/撮影ビットリオ・ストラーロ/音楽カーミン・コッポラ
マーロン・ブランド/ロバート・デュバル/マーチン・シーン/フレデリック・フォレスト/アルバート・ホール/サム・ボトムズ/デニス・ホッパー
オリジナル・サントラ盤(ワーナー・パイオニア)

Herald 日本ヘラルド映画

地獄の黙示録

■1979年カンヌ映画祭グランプリ受賞■フランシス・コッポラ作品■カラー作品■アメリカ映画

過言ではない！まさに世紀の巨篇

フランシス・コッポラ。40才。世界最強の映画軍団を率いて、いま世紀の巨篇を完成させた。映画史は、この一作を生むためにここまで歩んできた――そういって過言でないものがこの映画にはある。

暁のベトコン村襲撃のめくるめく映像、密林のバニーガール・ショーの圧倒的エネルギー、そして世界映画界に君臨する大スター、マーロン・ブランドの生涯を賭けた鬼気迫る演技。まさに「生涯忘れえぬフィルム」(ニューヨーク・タイムズ)である。

2本の「ゴッドファーザー」の利益をすべて注ぎこみ、全財産を抵当に入れ、なお足らぬ製作資金をつくるために世界中に協力を仰ぎ、アメリカ国防省の全面非協力や天災、人災など、うちつづく極限的な苦難のなかで、監督みずから、〈私が倒れたらミリアスが、ミリアスが倒れたらルーカスが完成させねばならぬ〉と叫びさえしたコッポラ畢竟の大作「地獄の黙示録」――それはひとりコッポラの、というより、今世紀の終りに、生まれるべくして生まれた作品として、また起こるべくして起こった世界文化史上の〝事件〟として、永遠に記憶されつづけるだろう。

あなたは6人目の同乗者！

一そうのPBR(河川巡回艇)に乗って戦争を旅するひとりの大尉と4人の部下。彼らが目撃するすべてのことを、6人目の同乗者となって同時体験する2時間半――。

サイゴンの情報指令部に呼び出されたウィラード大尉(マーチン・シーン)は、数々の戦歴で勇名をはせるカーツ大佐(マーロン・ブランド)の暗殺を命じられる。カーツ大佐はナン川上流のジャングル奥地に〝王国〟を築いて、支配者に収まっているというのだ。

ウィラードは、クリーン(ラリー・フィッシュバーン)、ランス(サム・ボトムズ)、シェフ(フレデリック・フォレスト)、チーフ(アルバート・ホール)の4人を連れて、川をさかのぼった。

空軍騎兵隊第一中隊のキルゴア中尉(ロバート・デュバル)のもとでの凄まじい殺りく、次に出会った密林の中のラスベガス。平常の感覚を次第に失ってゆく彼らが遂にたどりついた最終目的地には、白塗りの不気味な男たちが待ちかまえていた。カーツは狂人なのか、それとも偉大な指導者なのか。フォト・ジャーナリスト(デニス・ホッパー)に案内されて、ウィラードはいま神の館に足を踏み入れた。

全世界をつつみこんだ激賛の嵐

1976年3月20日に始まり、1200万ドルの予算で、120日で終わるはずだったこの映画は、540日の撮影日数と、150万メートルのフィルム、そして最終的には3100万ドルの映画にふくれあがった。製作発表から5年、全世界がひたすら待ちつづけたこの作品は、1979年8月15日、ニューヨークとロスアンゼルスで遂に公開された。それはジャーナリズムが〝アポカリプス・フィーバー〟と名づけたほどの、熱狂的な迎えられ方だった。

「もはや天啓とでもいうべきもの」(ニューヨーク・ポスト)、「われわれの時代が生んだ最大のもののひとつ」(ハリウッド・リポーター)、「映画史上のどんな偉大な作品とも比較されていい一大傑作」(ロスアンゼルス・タイムズ)といった激賛の嵐を、さらにかきたてるように、TV番組「WHEN」は、「必ず見なさい！」と叫び、全米から全世界から、人々は一刻も早くこの作品を見ようと集まった。

いよいよ「地獄の黙示録」がやって来る。

3月15日〈土〉ロードショー

銀座1丁目 **テアトル東京** (562)5301

シネラマ 6CH超ステレオサウンド スーパー・シネラマ方式